

子どもや保護者の気持ちに寄り添った支援のあり方を求めて
～ことばの教室担当者の立場から～

1 設定理由

インターネットやゲーム機の普及、核家族化、共働き家庭の増加、安全な遊び場の減少や近所づきあいの希薄化など、社会情勢が大きく変化している。それに伴って、子育てをめぐる状況や親子の関わり方にも変化が生じている。親も子も多忙で、親子で同じ方向を向いて一緒に活動する時間は本当に少なくなってきた。だからこそ保護者と子どもの間に入り、その関係を円滑につなぐ役割が、ことばの教室に求められているのではないかと考える。また、ことばの教室は、週に1～2回だけ通う場所である。限られた時間しかないが、だからこそ見えてくるものやできることがある。また、保護者と直接話をする機会も多く、子育てや子どもの発達などについての相談を受けやすい。

そこで、ことばの教室の役割を、子どもや保護者の「気持ちに寄り添う」という視点から考えてみることにした。

2 研究仮説

- (1) インリアル・アプローチ的な視点で子どもに関わることが、コミュニケーション能力や学習意欲の向上につながるであろう。
- (2) 保護者の思いを受けとめ、「今、何が必要か」を具体的にアドバイスすることが、良好な親子関係を築く一助となり、保護者の不安を軽減することにつながるであろう。

3 研究内容

- (1) 指導記録と児童の変容を結びつけて、どんな支援が有効であったかを考察する。
- (2) 保護者とのかかわり方を振り返り、どんなアドバイスが有効であったかを考察する。

4 結論

- (1) インリアル・アプローチの視点を念頭に置いて子どもと関わったことで、子どものコミュニケーション能力や学習意欲が高まった。
- (2) 保護者の思いを受けとめ、「今、何が必要か」を具体的にアドバイスしてきたことで、保護者の不安を軽減することができた。

1. 研究主題 子どもや保護者の気持ちに寄り添った支援のあり方を求めて
～ことばの教室担当者の立場から～

2. 主題設定の理由

(1) 社会情勢より

核家族化の進展とともに、子育てをめぐる状況もどんどん変化を遂げている。以前は、困ったときは、子育て経験の豊富な祖父母に助言をもらっていた親が多かったと思われるが、祖父母の時代とは子育て環境が違いすぎて、聞く耳をもたなくなってしまう保護者や助言したくてもどう助言したらよいのかわからない祖父母もいる（ゲーム機の普及、共働き家庭の増加、ネット社会、安全な遊び場の減少、近所づきあいの希薄化）。片や、子育ての情報がネット上やメディアに溢れ、どれが信頼できる情報であるのか、わが子に適した方法はどれなのかを選ぶのが困難な状況にあるとも言える。

子どもたちも塾や習い事で多忙な日々を過ごしていて、家においてもゲームやインターネットに夢中で動かないという話をよく耳にする。親子で同じ方向を向いて一緒に活動する時間は本当に少ないのではないのか。

だからこそ保護者と子どもたちの間に入り、円滑につなぐ役割がことばの教室に求められているのではないかと考える。

(2) ことばの教室の特性より

ことばの教室は、週に1～2回だけ通うという特別の場所である。限られた時間しかないが、だからこそ見えてくるもの、できることがある。

学級のように学習のノルマがあるわけではないので、担当者もゆとりを持って子どもと接することができる。マンツーマンのオーダーメイドの指導なので、子どものテンポに合わせる事が可能である。また、子どもにとっては先生を一人占めでき、褒めてもらえる、かけがえのない時間でもある。だからこそ何でも話せる関係性を築きやすい場であり、短いながらも密度の濃い時間が過ごせる場でもある。

かつて、「今日は病院へ行くので欠席させる予定だったのですが、子どもが『今日はことばの教室があるから、絶対学校へ行く。』』というので、午後から登校させます。」という連絡を受けたこともあった。それだけ、ことばの教室の存在は大きいのだと実感させられた。

また、ことばの教室の担当者は、特に他校通級の場合、送迎の際など保護者と話をする機会が多い。学級担任に相談するのは勇気がいるが、ことばの教室の担当者ならば、行動面や心理面も含めて気軽に相談してみようと思う保護者も多い。

以上の理由から、子どもや保護者の気持ちに寄り添って話を聞ける貴重な場としてのことばの教室の役割を、改めて「気持ちに寄り添う」という視点から考えてみることにした。

3. 研究方法

事例研究：(1) 指導記録を整理して児童の変容と結びつけることで、どんな支援が有効であったかを考察する。

(2) 保護者との関わり方をふり返り、どんなアドバイスが有効であったかを考察する。

4. 研究仮説

- (1) インリアル・アプローチ的な視点で子どもに関わることが、コミュニケーション能力や学習意欲の向上につながるであろう。
- (2) 保護者の思いを受けとめ、「今、何が必要か」を具体的にアドバイスすることが、親子間の良好な関係を築く一助となり、保護者の不安を軽減することにつながるであろう。

5. 研究の内容

(1) 仮説1について

① インリアル・アプローチ的な視点でかかわった指導事例

(2014年度～2015年度1学期)

・対象児 A について

現在5年生。通常学級に在籍し、週2回ことばの教室に通級している。

就学時健康診断の際は母子分離不安があり、集団での知能検査を受けることができなかった。

入学後、言語発達の遅れがあり、自分の気持ちを相手にうまく伝えることができないため、他の児童とのトラブルが多く、担任の指示を理解することも困難であった。また、読み書き能力にも遅れが見られ、学習に集中できずに立ち歩いたり、学習妨害をしたりすることが多く見られた。

母親は当初、特別支援教育に対する理解が薄く、取り出し指導には反対であった。しかし、学級担任とともに個別学習の必要性を時間をかけて説明し、1年生の学年末にようやく通級の承諾を得た。

次の表は、2年生から3年生1学期までのA児との関わり方を、インリアル・アプローチ的な視点と関連づけたものである。

□□□□ は、有効だと思われた支援方法

子どもとの関わり方	インリアルの視点
<p>2年生</p> <p>〔4月〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よだれが出る。口腔筋トレーニングを始めたかったが、本人に全くその気はなく、学習する気もなく、様子をうかがっているうちに時間だけが過ぎていった。 ・学習が終わったら、ご褒美タイムで遊べることを何度も告げたが、学習モードには入れなかった。時計が読めず、見通しを持つことも厳しい状況であった。 <p>□□□□</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交代で音読→じゃんけんで読む順番を決めた。 ・鉛筆の持ち方→正しく持てた時を見逃さずに大げさに褒めた。 	<p>Silence (静かに見守る)</p> <p>Observation (よく観察する)</p> <p>相手が始められるように待ち時間を取る。</p>

[5月]

- ・飛行機にたいへん興味を持っているので、飛行機の絵を描かせて、切り抜き、その飛行機が着陸したところの問題を解くように指示した。

課題全部は終わらなかったが、意欲的にとりくむことができた。(課題は途中までしか終わらないことが多かったが、学級担任の理解があり、そのまま学級へ帰す日々が続いた。)

- ・ノート→なぞり書きで書かせた。
- ・作文→虫食いにして記入させた。

[6月]

- ・語句の意味がわからない時は、絵や動作化により理解させた上で、教員が言語化した。また、言い誤りをした時は、さりげなく正しく言い直して聞かせたり、ことばを意味的、文法的に広げて返したりした。さらに、新しいことばのモデルを示したり、教員の行動や気持ちを言語化したりすることで、語彙が広がっていくような関わりを心掛けた。
- ・作文は、本人の気持ちを聞き取って教員が記述し、書く量が多いと拒絶するため、1文ずつに切り離して渡しながらかかせた。初めて最後まで書くことができた。

[7月]

- ・算数の文章題は絵や図に描いて説明した。→理解できた。
- ・繰り上がりや繰り下がりのある計算は苦手で、とりくもうとしなかったので、繰り上がり・繰り下がりのない問題に変更した。→最後までとりくめた。

[夏休みの保護者面談]

- ・ドッジボールやフールツバスケットの方法が理解できていないことが判明→一緒に疑似遊び体験をしながら動作を言語化したり、遊びのルールを理解させたりしていくことを共通理解した。
- ・伸びたところを認め、褒めていくようにすることを確認した。
- ・得意なところを活かした指導をしていくことを共通理解した。(生き物・飛行機)

Understanding
(深く理解する)

子どもの発達レベルに合わせる。

パラレル・トーク
リフレクティング
エキスパンション
モデリング
セルフ・トーク

子どもの発達レベルに合わせる。

Understanding
(深く理解する)

会話や遊びを共有し、コミュニケーションを楽しむ。

<p>[2学期]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗り物に興味を持っていて、「回転赤色灯」「遮断機」などの難しい言葉を知っていた。そのまま覚えて、意味を聞いた。 ・教科書の交代読みをやっていたら、「僕が全部読む！」と言い出した。「すごいね！」とおおげさに褒める。ただし、その後は教科書は読みたがらないので、虫の図鑑と一緒に読む。 ・テスト直しの課題→読解はできていたが、読み書きが苦手なため、点数に反映していないことが判明。 →問題を読み上げたら点数が上がる。 	<p>Listening (耳を傾ける) モニタリング</p> <p>Understanding (深く理解する)</p>
<p>[2学期末保護者面談]</p> <p>担任：学級では絵が賞に入りやる気が出てきた。発表の仕方がよくなり、みんなに認められるようになってきた。</p> <p>保護者：自分の気持ちを伝えられるようになってほしい。本人の言いたいことがわからない。 →本人の良いところを確認し合うとともに、うまくいった時の関わり方を伝える。</p>	
<p>[3学期]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はさみの使い方がうまいことを褒める→モチベーションがあがる。 ・視写→すぐ脇に写す文を置くようにさせた。 ・良い姿勢で書けている時に、本人の姿勢をまねて、確認させた。 	<p>Observation (よく観察する) ミラリング</p>
<p>3年生</p> <p>[1学期]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習モードに入るまでに時間がかかる。 ・ノートに書く量を減らす→とりくみやすくなった。 ・答えを選択式にしたらとりくめた。 ・運動会の練習時、校庭からダンスの音がうるさいことを予告しておいたら、落ち着いて学習できた。 ・学習量を制限し、ゴールを示した。 ・算数→それまでは、式をこちらで書いて答えのみ書き込ませていたが、「筆算の式も自分で書く。」と言い出した。 虫の図鑑と一緒に見ながら会話を楽しむ。 <p>[夏休みの保護者面談]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中できる時間が増えてきた。今後もことば遊びをしながら語彙を増やしたい。毎晩、豹のぬいぐるみを抱いて寝ている可愛い面があるとの情報をいただく。(子どもの良い面に着目した言葉) 	<p>子どもの発達レベルに合わせる。</p> <p>子どもの発達レベルに合わせる。 子どものリズムに合わせる。</p>

②インリアル・アプローチについて

インリアルは、INter REActive Learning and Communication の頭文字をとり、INREAL (インリアル) と呼ぶコミュニケーション・アプローチである。1974年に、アメリカのコロラド大学のリタ・ワイズ (Weiss,R.) 博士とエリザベス・ヒューブレン (Heublein, E.) 博士によって、就学前のことばの遅れの子どもへのコミュニケーション・アプローチとして始まった。当初は子どもの言語に焦点をあてたランゲージ・セラピー (言語セラピー) だったが、その後、言語指導からコミュニケーション指導へ変わっていく。コロラド大学でインリアルが始まった1970年代のことばの遅れに対する指導は、スピーチ・アンド・ランゲージ・セラピー (話しことばと言語の指導) が中心であった。つまり、子どもはことばを獲得することで、人とのコミュニケーションが可能になると考えて、言語を獲得させることが第1の目標になっていた。しかし、その後、言語発達研究に語用論的視点を取り入れられるようになり、言語とコミュニケーションのとらえ方に変化が生じてきた。子どもはまずコミュニケーションを学び、そのプロセスの中に言語獲得も含めて考えられるようになった。

インリアルは、子どもの問題だけではなく、コミュニケーションにおける子どもとおとなの両者の相互作用に焦点をあて、ビデオ分析という手法を使い、相互作用の中での関係性を変えていくことで、コミュニケーションの改善を図っていくことをねらっている。

インリアルでは、子どものコミュニケーションをうまく進めるために次のような原則を設けている。

- 1) 子どもの発達レベルに合わせる。
- 2) 会話や遊びの主導権を子どもに持たせる。
- 3) 相手が始められるように待ち時間を取る。
- 4) 子どものリズムに合わせる。
- 5) ターン・テイクング (やりとり) を行う。
- 6) 会話や遊びを共有し、コミュニケーションを楽しむ。

また、子どもと関わるおとなの基本姿勢として SOUL を掲げている。SOUL とは、Silence, Observation, Understanding, Listening の頭文字をとったもので、それぞれ次のようなねらいがある。

Silence (静かに見守ること)

子どもが場面に慣れ、自分から行動が始められるまで静かに見守る。

Observation (よく観察すること)

何を考え、何をしているのかよく観察する。

コミュニケーション能力・情緒・社会性・認知・運動などについて能力や状態を観察する。

Understanding (深く理解すること)

観察し、感じたことから、子どものコミュニケーションの問題について理解し、何が援助できるか考える。

Listening (耳を傾けること)

子どものことばやそれ以外のサインに十分、耳を傾ける。

さらに、反応の具体的方法として言語心理学的技法がある。

[言語心理学的技法]

ミラリング	子どもの行動をそのまままねる。
モニタリング	子どもの音声やことばをそのまままねる。
パラレル・トーク	子どもの行動や気持ちを言語化する。
セルフ・トーク	おとな自身の行動や気持ちを言語化する。
リフレクティング	子どもの言い誤りを正しく言い直して聞かせる。
エクスパンション	子どものことばを意味的、文法的に広げて返す。
モデリング	子どもに新しいことばのモデルを示す。

③本研究におけるインリアル・アプローチ的な視点について

本研究ではビデオ録画は行っていないが、インリアル原則と指導者の基本姿勢としてSOULの考え方を取り入れた指導を心がけ、上記の言語心理学的技法を取り入れて指導したという意味で、インリアル・アプローチ的な視点という言葉を使用した。

[考察]

- ・インリアル・アプローチ的な視点での関わりを意識したことで、その子どもの気持ちや特性を理解しようとする思いが強くなり、子どもの気持ちに寄り添った支援につながったのではないか。
- ・「難しい」という先入観によって、学習意欲を阻害されていた場合は、「がんばれ！」ではなく、「一緒にやろう！できるだけ待ってるよ。」という姿勢で受けとめ、成功体験を積み重ねていくことで、学習意欲を高めることができたのではないか。
- ・本人の好きなことや得意なことを学習活動の中に取り入れることにより、学習に対する関心を高めることができたのではないか。
- ・書くことの苦手さへの対応として書く量を制限し、読むことの苦手さへの対応として読む量を制限したことにより、苦手意識が軽減されたのではないか。
- ・褒めたり、認めたりする場面を見つけて、できるだけ具体的にどんなところがよいのかを伝えることが、自信につながったと考える。叱られ要素の多い本児に対しては、特に褒められたり認められたりする体験が大切だったと思われる。
- ・対話を通して自分の思いが伝わったときの心地よさを体験させたことにより、進んで対話しようとする気持ちを持たせることができた。
- ・予告をしたり、ゴールを示したりすることにより、見通しを持って活動することができた。
- ・口ではうまく説明できないことが多い児童への対応として次の2点が有効だと思われる。
→対応① さりげなく紙と鉛筆を置いておくと、それを使って話し始める。そのうち、自然と紙や鉛筆を使って説明できるようになる。教員側も、一生懸命に内容を理解しようと努め、話が広がりやすくなるように相槌を打ったり、質問をしたりする。
→対応② 表情や目線などノンバーバルなところから言いたいことを汲み取って代弁する。

〔現在の様子〕

まだ課題は多く、チャイムが鳴ってもすぐに教室に戻れなかったり、机の周囲に物がたくさん落ちていたり、先生の指示が理解できなかったり、集団行動ができなかったりすることもある。しかし、友だちとのトラブルは減ってきて、落ち着いて話を聞いたり、自分の考えを伝えようとしたりする姿勢がみられるようになってきた。

(2) 仮説2について

○落ち着かず、友達とのトラブルが多いことを悩んでいたB児の母への具体的なアドバイスの事例（2014年度～2016年度1学期）

・対象児Bについて

現在4年生。通常学級に在籍し、他校から週1回の通級をしている。就学時健康診断の言語検査で発音の異常がみられ、入学後に通級を開始した。落ち着きがなく、友達とのトラブルが多いことで母親は悩んでいた。

発音は、キ・ケ音の歪みがみられたが、一貫性はなかった。早口で、発音不明瞭なことがあった。

次の表は、1年生から3年生1学期までのB児との関わり方と、保護者への支援の記録をまとめたものである。

_____は児童の変容

子どもとの関わり方	保護者への支援
<p>1年生 〔1学期〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級の際は、教室内のいろいろな物（ホッチキス、穴開けパンチ、コンパス、電卓、はんこなど）にとっても興味を示し、離れなかった。 ・次の回から活動プログラムとゴール（終了時刻）を示し、見通しを持たせることにした。 ・プログラムから逸れることもあったが、何とか予定通りに活動を進めることができた。 ・対戦ゲームをやると、自分が勝てるようにルールを変更したり、自分が思う数が出るまで何度もルーレットを回し続けたりした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・母親より、ことばの教室での子どもと担当者の関わり方を見ていて「勉強になった。」との発言あり。 ・活動の見通しを持たせることの大切さを示す。 ・負けることへの耐性が未熟であることを説明。あらかじめ「負けることもある」ことを伝えておく必要があること、「負けても怒らない」という約束が守れたら、褒めて終われることを話す。

〔1学期末面談〕

- ・学級担任との面談では、友だちとのトラブルが絶えず、あちらこちらに興味を示して落ち着かないとのことであった。学習は普通にこなし、文字も丁寧で、語彙は豊富で難しい言葉も知っている、と通級時の様子と同じであった。
- ・母との面談では、B児は個性的な子どもで、自分のことは棚に上げて、他には厳しいので困っているとのことであった。

〔2学期〕

- ・なかなか予定した活動に入れない日が多い。
- ・音読はとても上手。なのに、読み取りは苦手。
- ・発音に関しては、イヤートレーニングと発音練習を継続して行ってきたことで、正しい音が出せることが増えてきた。
- ・ボールペンの分解・組み立てなど、夢中になるとブレーキが効かなくなりがち。
- ・ソーシャルストーリーを継続して行う。

〔2学期末面談〕

- ・発音は改善されたが個別指導の時間を継続してほしいとの要望があった。
- ・いつも大声で話すので、父親からうるさいと怒鳴られていたが、「声のものさし」の学習をしてから、「1の声ね。」と母親が声をかけると、小声で話すことができるようになり、弟にも波及し、父親が穏やかになったとの嬉しい報告を受ける。

〔3学期〕

- ・WISC-IV検査実施（結果は資料参照）
- ・表情カード、ガリバーごっこ（決められた時間内は動かずにじっとしている活動）、SST、対戦ゲーム（オセロや将棋）、「こんな時どうする？すごろく」、感覚統合トレーニング実施

・知識はとても豊富であり、頭の回転も早いことはすばらしい長所であることを確認し合う。

・自分をモニタリングする機会があるとよいことを話す。

・落ち着いてできた活動を取り上げて、保護者と確認し合った。（プラス評価の見方）

・日常生活で困っている場面を聞き、ソーシャルストーリーとして展開し、母親に参観してもらう。

（資料参照）

・通級を継続し、指導内容を変更することを確認。（発音指導から SST と感覚統合トレーニングへ）

・「声のものさし」を取り入れる等、母親の対応のすばらしかったところを褒める。

※SST：ソーシャルスキルトレーニング

・結果を分析し、得意なところと苦手なところ、及びその対応について伝える。

<p>・オセロや将棋でルールが守れるようになる。(負けても OK になる。)</p> <p>2年生</p> <p>〔1学期〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SST, だるまさんが転んだ, 後出しじゃんけん, 命令ゲーム, ガリバーごっこ, 相手が何と言っても『そうですね』と答える活動, 相手を取りやすい位置へ投げるキャッチボール, アンゲーム (市販のカードに書いてある質問に対して, 自分の考えを述べる活動) 等の実施 <p>〔夏休みの面談〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お経に興味を示していたので, 母子で一緒にお経を覚えた。 →<u>母子の距離が縮まった。</u> ・<u>母子でお互いの気持ちを伝え合う時間を取った。</u> ・<u>将来的には通級ではなく, 家庭で SST ができる方が望ましい旨を話す。</u> <p>〔11月〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>担任よりこのところ落ち着いたとの連絡帳の記述あり。</u> <p>(期末面談)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>家庭で SST をやるようになり, 落ち着いてきたとのこと。</u> ・<u>親子で話をじっくり聞き会える合える関係になった。</u> ・<u>プレーキがきくようになった。</u> ・<u>叱ることが減った。</u> <p>3年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こんなときどうする? すごろく」, ソーシャルストーリー, 後出しじゃんけん, 将棋, 命令ゲーム, リトミック, リコーダーの演奏, 歌を歌う。 <p>※学級委員になる。ジュニアコーラスに入団。歌が大好き。リコーダー演奏も上手。</p> <p>※とても落ち着いてコミュニケーションが取れるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会練習で疲れていて落ち着かないかも・・・と母親が心配した日も落ち着いて活動できる。 ・1学期末で通級終了とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での良い体験の積み重ねの結果であることを確認する。 ・それぞれの活動の目的について説明する。 ・母親の苦勞をねぎらうとともに, その苦勞は, きっとこの先役に立つであろうことを伝える。 ・家庭での SST の必要性と目的, 方法を伝える。 ・本人の成長と母親の努力の成果であることを伝える。 ・落ち着いて活動できるようになったことを確認し合い, 通級終了について見通しを立てる。 ・母親より「もっと教えていただきたいけれど, この子よりもっと先生のことを必要としている方がいると思うので終了にしてください。」という温かい言葉をいただく。
--	---

〔考察〕

- ・見通しを持たせることの大切さや負けることへの耐性の必要性など、落ち着いて生活するためのヒントを具体的に示すことで、保護者の不安を軽減することができたのではないか。
- ・その子の長所を認め、プラス評価で関わっていくことを保護者に伝えることで、親子間の良好な関係を築くことができたのではないか。
- ・日常生活で困っている場面を聞き、ソーシャルストーリーとして展開し、保護者に参観してもらうことで、子どもへの関わり方の参考にでき、保護者の不安を軽減することができたのではないかと考える。
- ・保護者の苦勞をねぎらい、希望を持たせることで保護者が子育てに前向きにとりくもうとする姿勢が見られるようになったのではないか。

6. 成果と課題 (○→成果 ●→課題)

- インリアル・アプローチの視点を念頭に置いて子どもと関わったことで、コミュニケーション能力や学習意欲が高まってきた。
- 保護者の思いを受けとめ、「今、何が必要か」を毎回の指導時に具体的にアドバイスしてきたことで、保護者と子どもとの良好な関係を築くことができ、保護者の不安を軽減することができた。
- 子どもや保護者の変容がみられるには、長期的な指導支援が必要だと思われる。指導者が代わる場合の引き継ぎを綿密に行う必要がある。
- 子どもや保護者のニーズに応えることができるためには、常に専門性を磨く研修が必要である。
- 子どもの実態に応じた特別支援教育の提供を行っていくためには、今後も更なる啓発活動が必要だと思われる。

—終わりに—

インリアル・スーパーバイザーの里見恵子先生のことばに次のようなものがある。

「私たちは、つい子どもが変わらないのは、障害が重く問題が大きいせいであると考えがちです。しかし、『教師というものは、自分の方法に問題があるかもしれないという危惧をいつも持っているべきなのかもしれない』ということを中心に止めておいていただきたい。SOULを実践する中で、教師という立場をいったん置いて、子どもの立場から考えていくことが大切です。」

子どもや保護者との関わりの中で、気持ちに寄り添った支援を行いたいと考え、実践してきたが、なかなか思うような指導支援は難しい。そんな中でも、子どもや保護者のせいにするのではなく、自分の指導支援の方法について常に反省していく教師でありたいと改めて考える機会となった。

〔参考文献〕

- ・「こどもとの豊かなコミュニケーションを築くインリアル・アプローチ」
竹田 契一・里見 恵子 編著 日本文化科学社
- ・「実践インリアル・アプローチ事例集 豊かなコミュニケーションのために」
竹田 契一 監修
里見 恵子・河内 清美・石井喜代香 著 日本文化科学社
- ・「心をことばにのせて」中川 信子 ぶどう社

資料

- ① A児の個別指導計画（2年生・3年生） p 1～p 2
- ② B児の個別指導計画（1年生～3年生） p 3～p 5
- ③ B児の保護者からの手紙とB児からの手紙（通級終了時） p 6～p 8
- ④ ソーシャルスキルプリント p 9～p 11

自立活動 (コミュニケーション) 個別指導計画

いすみ市立大原小学校 ことばの 教室

児童名	A	性別	男	在籍校・学年	小学校・2年
指導形態	個別 週2回	長期目標記入日	26年 5月 1日	記入者	中村 かおる

保護者の 願い	(1) 相手の言葉の意味を理解するとともに、自分の気持ちを相手にうまく伝えられるようになってほしい。
	(2) 集中力を身につけてほしい。

長期目標	(1) 語彙を増やし、相手とのコミュニケーションがスムーズにできる。
	(2) 落ち着いて活動に取り組むことができる。

	1 学期	2 学期	3 学期
短期目標	<ol style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な語彙を身に付ける。 落ち着いて活動に取り組むことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 与えられた課題に集中して取り組み、やり終えることができる。 語彙を増やし、自分の気持ちを相手に伝えられるようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> 与えられた課題に集中して取り組み、できるだけ早くやり終えることができる。 語彙を増やし、自分の気持ちを相手に伝えられるようにする。
指導内容及び手立て	<ol style="list-style-type: none"> なぜなぞやスリーヒントクイズなどのことば遊びを通して語彙を拡充するとともに、表情カードなどを用いて自分の気持ちを表現できるように練習する。 その時間の活動プログラムを立て、見通しを持って活動させるとともに、予定通りにできた時は大いに褒め、達成感を味わわせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 与えられた課題が多いときは、取り組むべき課題に集中させるため、余分な課題は目に入らないように隠す。また、課題のゴールを示すことにより見通しを持たせる。 ことば遊びや絵本の読み聞かせなどを通して、語彙の拡充を図る。また、気持ちを代弁することにより情緒の安定を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 与えられた課題に集中できるように、見通しを持たせるとともに、できるだけ絵や図を用いて具体的に説明する。 ことば遊びや絵本の読み聞かせなどを通して、語彙の拡充を図る。また、気持ちを代弁することにより情緒の安定を図る。
児童の変容と現在の様子	<ul style="list-style-type: none"> 学級でやりきれなかった学習や学級の課題を持って来室するが、やりきれないことが多かった。語彙の拡充のための活動やMFTまでは手が回らない状態であった。 1学期かかって、ようやく落ち着いて学習に向かおうとする態度が身に付いてきたが、集中時間はとても短い。 	<ul style="list-style-type: none"> 今学期も学級でやりきれなかった学習や学級の課題を持って来室することが多かったが、大分学習に集中できる時間が長くなり、達成できることも増えてきた。ただし、なかなか集中が困難な時もある。 MFTや語彙の拡充をするための時間はなかなか確保できない状態である。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に集中できる時間が増えてきたが、むらがあるので、安定して学習に集中できることを目指したい。 話したいことをたくさん抱えて来室するので、共感し、言いたいことを汲み取って代弁したり、言い換えたりしながら語彙を増やしてきた。引き続き、楽しく会話する中で語彙を増やしていきたい。
備考			

自立活動 (コミュニケーション) 個別指導計画

いすみ市立大原小学校 ことばの 教室

児童名	A	性別	男	在籍校・学年	小学校・3年
指導形態	個別 週2回	長期目標記入日	27年5月1日	記入者	中村 かおる

保護者の 願い	(1) 相手の言葉の意味を理解するとともに、自分の気持ちを相手にうまく伝えられるようになってほしい。
	(2) 集中力を身につけてほしい。

長期目標	(1) 語彙を増やし、相手とのコミュニケーションがスムーズにできる。
	(2) 落ち着いて活動に取り組むことができる。

	1学期	2学期	3学期
短期目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 語彙を増やし、自分の気持ちに近い感情を、選択肢の中から選べるようにする。 2. 与えられた課題に集中して取り組み、やり終えることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 気持ちを表す言葉を広げることにより自分の気持ちを相手に伝えやすくする。 2. 与えられた課題に集中して取り組み、やり終えることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 語彙を増やし、自分の気持ちを相手に伝えられるようにする。 2. 与えられた課題に集中して取り組み、やり終えることができる。
指導内容及び手立て	<ol style="list-style-type: none"> 1. ことば遊びや絵本の読み聞かせなどを通して、語彙の拡充を図る。また、自分の気持ちに近い感情を選択肢から選ぶことにより、自分の気持ちを表現できるようにする。 2. 与えられた課題に集中できるように、見通しを持たせるとともにできるだけ絵や図を用いて具体的に説明する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 気持ちを表す言葉と表情カードをマッチングさせる活動を通して気持ちを表す言葉の拡充を図る。また、気持ちを代弁することにより情緒の安定を図る。 2. 音読はできるだけ一緒に、書く課題は全文ではなく、穴埋め式にするなどにより、読んだり書いたりすることへの負担を減らす。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ことば遊びをしたり、本人が興味を持っている昆虫図鑑と一緒に見たりしながら会話を楽しみ、言葉で表現する体験を行っていく。 2. 学習のモチベーションを高めるために、学習内容について興味を持ちやすくするような言葉かけや雰囲気作りを工夫する。
児童の変容と現在の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・ なぞなぞなどのことば遊びを通して、少しずつ語彙が増えてきている。また、ことばでうまく表現できない気持ちを代弁することにより、少しずつ情緒が安定してきたように思われる。 ・ 集中できる時間は以前より長くなってきたが、課題を制限し、ゴールを示すことは必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表情カードについては全く興味を示さないことが多いので、気持ちを代弁する場面を多く設定した。少しずつ自分の気持ちを伝えられるようになってきた。 ・ 気持ちが学習に向かうまでにかかなりの時間を必要とするところもあるが、学習に対する取り組みは前向きになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気持ちを代弁することで、情緒の安定を図ってきたが、ことば遊び的なことには興味を示さなかった。語彙を増やす活動は、必要だと思われるので、様子を見ながら行っていきたい。 ・ 与えられた課題へ取り組める時間は、少しずつ長くなってきた。今後も、頑張ったことを褒めながら集中できる時間を延ばしていきたい。
備考			

自立活動 (コミュニケーション) 個別指導計画

いすみ市立大原小学校 ことばの教室

児童名	B	性別	男	在籍校・学年	小学校・1年
指導形態	個別 週1回	長期目標記入日	26年 5月 1日	記入者	中村 かおる

保護者の 願い	(1) 落ち着いて話ができるようになってほしい。
	(2) 集中して学習に取り組んでほしい。

長期目標	(1) 正しい発音で話すことができる。
	(2) プログラムに沿って集中して活動に取り組むことができる。

	1学期	2学期	3学期
短期目標	<ol style="list-style-type: none"> 置換化しがちなサ行音を正しく発音することができる。 プログラムに沿って活動に取り組むことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 早口にならずに、落ち着いて正しい発音で話したり、音読したりすることができる。 プログラムに沿って、落ち着いて活動に取り組むことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 落ち着いて周囲の状況を見ながら活動に取り組むことができる。 相手の話をゆっくり聞こうとする気持ちのゆとりを持つことができる。
内容及び手立て	<ol style="list-style-type: none"> イヤートレーニングと発音練習を継続して行うことにより、音の違いを認識させるとともに正しく発音できるようにする。 活動予定を最初に確認し、プログラムが終わるごとに丸印を付けていくことで、見通しを持って活動できるようにする。また、トークンエコノミーを用いて成果を確認させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 担当者と一緒に音読したり、後につけて読んだりする活動を通して、ゆっくりのリズムを誘導しながら音読させたり、会話をしたりする。 スモールステップでの目標を立て、達成できたかどうかを細かく自己評価させることにより、活動を振り返りながら次の活動へ移らせるようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> 「ガリバーごっこ」や「だるまさんがころんだ」などの静と動の動きを必要とする遊びをたくさん体験することにより、「待つ」ことができるようにする。 具体的に「こういう時にはこうしたらよい」ということをソーシャルストーリー等を通して練習していくようにする。
児童の変容と現在の様子	<ul style="list-style-type: none"> サ行音は正しく発音できるようになった。しかし、音読や日常会話が早口になりがちで、あわてていると「ケ」音が歪みがちである。 自分で活動の流れを書くなど、進んで活動しようとする意欲が見られるが、何かに夢中になるとブレーキが効かなくなることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 舌の動きがとてもよくなり、「ケ」音の歪みも少なくなってきた。早口になりがちのところはあるが、意識すればゆっくりと音読したり、発音したりできるようになった。 落ち着きのなさは継続しているが、活動予定表に沿って活動できるようになってきた。制限時間を決めると、モチベーションが上がるようである。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習モードに入るのに時間がかかることが多いが、始めたら集中して課題に取り組むことができるようになってきた。 ルールを守ることや負けても怒らないこと、場に応じた声の大きさの調整などができるようになってきた。 落ち着いて会話できることが増えてきた。
備考			※WISC—IV結果 (H27.1.14) FSIQ 107 VCI 99 PRI 104 WMI 103 PSI 118

自立活動 (コミュニケーション) 個別指導計画

いすみ市立大原小学校 ことばの教室

児童名	B	性別	男	在籍校・学年	小学校・2年
指導形態	個別 週1回	長期目標記入日	27年5月1日	記入者	中村 かおる

保護者の 願い	(1) 社会性を身につけ、友達とのトラブルを軽減してほしい。
	(2) 衝動性を抑えて、落ち着いて行動できるようになってほしい。

長期目標	(1) ソーシャルスキルを高め、学校生活を楽しく過ごせるようにする。
	(2) 耐性を身につけ、自分の感情をコントロールする力を高める。

	1学期	2学期	3学期
短期目標	<ol style="list-style-type: none"> 「こんな時どうしたらよいのか」を場に即して考えることができる。 衝動性を抑えて我慢する体験を通して、耐性を高めることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 現在自分が置かれている状況を客観的にとらえることができる。 衝動性を抑えて我慢する体験を通して、耐性を高めることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校生活で困っていることについてどうすればうまくいかを考えることができる。 衝動性を抑えて我慢する体験を通して、耐性を高めることができる。
指導内容及び手立て	<ol style="list-style-type: none"> ソーシャルストーリーやコミック会話を用いて、具体的に「こういう時にはこうしたらよい」ということを活動の中に取り入れ、練習していくようにする。 「ガリバーごっこ」や「だるまさんがころんだ」などの動と静の動きを必要とする遊びをたくさん体験することにより、「待つ」ことができるようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> 自分の立場からだけでなく、違う立場からの見方を教えていくことで、自分の置かれている状況を客観的に見ようとする意識を持たせる。 将棋やおセロゲーム、トランプなどの勝敗が出るゲームを負けても怒らない約束をしてから実施することで、仲良く遊べるようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校生活で困っている内容を自分で思い出すことはあまりないようなので、保護者や学級担任からの情報を元にソーシャルストーリーを行っていく。 相手が取りやすい位置にボールを投げるキャッチボールや、相手の動きを真似する活動などを体験することで、相手に合わせようとする気持ちを育てる。
児童の変容と現在の様子	<ul style="list-style-type: none"> 場に応じた言動についてよく考え、ふさわしい答えを出すことができるが、実生活には、まだ結びついていないことが多い。 待てる時間は長くなってきたが、耐性が身に付くまではいかない。衝動を自分で押さえられる方法を一緒に考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 将棋に興味を持ち、ルールを守って活動できるが、自分が負けそうになると自分に有利なルールに変更してしまうことがある。負けても最後までルールを守って戦うことが大切であることを理解させたい。 自分のやりたいことを抑えて、予定されている活動に取り組もうとする姿が時々見られるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「こういう時にはこうしたらよい」ということが少しずつ生活の中で理解できるようになってきた様子である。 衝動的な行動をとることもあるが、我慢する力も少しずつ身についてきた。相手の動きを見て自分もそれに合わせて動くことができるようになってきた。
備考	※WISC-IV結果 (H27.1.14) FSIQ 107 VCI 99 PRI 104 WMI 103 PSI 118		

自立活動 (コミュニケーション) 個別指導計画

いすみ市立大原小学校 ことばの教室

児童名	B	性別	男	在籍校・学年	小学校・3年
指導形態	個別 週1回	長期目標記入日	28年5月1日	記入者	中村 かおる

保護者の 願い	(1) 社会性を身につけ、友達とのトラブルを軽減してほしい。
	(2) 衝動性を抑えて、落ち着いて行動できるようになってほしい。

長期目標	(1) ソーシャルスキルを高め、学校生活を楽しく過ごせるようにする。
	(2) 耐性を身につけ、自分の感情をコントロールする力を高める。

	1学期	2学期	3学期
短期目標	1. 学校生活で困っていることを自分で軽減しようとするができる。 2. 衝動性を抑えて我慢する体験を通して、耐性を高めることができる。		
指導内容及び手立て	1. 昨年と同様に、ソーシャルストーリーを元に役割演技を行ったり、どうすべきかを一緒に考えていくことで、学校生活の困り感を減らしていくようにする。 2. 感覚統合トレーニングにより、我慢する体験や相手に合わせようとする体験、タイミングを合わせる体験などを積み重ねていくようにする。		
児童の変容と現在の様子	<ul style="list-style-type: none"> まだ学級の中では、トラブルも多いようであるが、通級の指導場面では、とても落ち着いて、相手の気持ちを考えて行動できるようになってきた。 保護者も本人の個性をよく理解してくださっているので、後は家庭に任せることで、通級終了とした。 		
備考	※WISC—IV結果 (H27.1.14) FSIQ 107 VCI 99 PRI 104 WMI 103 PSI 118		

以前、中村先生から、『普段の生活の中で具体的に困ったことがあればお知らせください』との言葉を頂いてから、メモにとるようにしたら、その日のうちに3件くらいあがりました。

①、トランプやオセロなど、ゲームをやりたいが、"できない"と言うと→泣く。ゲームを"終わり"と言うと→泣く。ゲームに負けると→泣く。など、トランプ、オセロと子供から聞くだけで、親の方が拒絶反応をおこしてしまう。

②、"僕はお米を研いでお手伝いしたいのに、どうしてやらせてくれないの！"と泣く。

③、ドアホンや、電話が鳴ると、"僕が出る！！"と騒ぎ、来客中・通話中に大声で話しかけたり、大騒ぎになる。

⇒①の、ゲームに関しては、"どうして一緒にゲームをやってあげられないか判る？"とたずねると、"んー、弟がぐちゃぐちゃにしちゃうから…？"と。"お母さんはそうじゃないよ、●くんは負けそうになると泣くでしょ。勝負は勝つ時も、負ける時もあるのに、自分が負けると機嫌が悪くなって、泣いたり怒ったりする子とは一緒に遊びたくないからだよ。それと、'3回だけやれるよ'と約束して始めたのに、'あと一回、もう一回！'と騒いで、泣くでしょ？ 'おしまい'なのに、いつもちゃんと終わりにできないからやりたくないんだよ。お母さんは、'ご飯が炊けるまで20分あるからトランプが3回できる'と思って一緒に遊んだり、'お風呂が沸くまで10分あるからオセロを一回だけできる'と思って始めるの。それなのに、毎回、遊んだあとに、もつともつと、と言われると、3回だけ遊べる時間があっても『できない』って言うしかないんだよ。"と話したら、急に理解が進んで、'今はトランプで遊ぶかな？'と、こちらの時間の有無をきいてきたり、負けようになっても泣かずに"あー、負けそうだね、でも泣かない、よし、次は勝つぞー"と見えたり、"3回やったから終わりだね、たのしかった。また今度、いつやるかなー"と遊具を道んで片付けたり。こらが拍子抜けするくらい変わりました。

②のお手伝いに関しても改善が見られました。別の事で父親に叱られた時に、

"僕ほうまくできないから役に立つお手伝いができないん片！"とくやしがりて泣いていたので、

"お風呂のお湯を抜いてシャワーで流してね、お母さんのお手伝いをしてくれると

助かるなよ"と言うと、"それなら簡単！ボクがや、こあげる！"と。終わってから、

"お母さん助かった！役に立つお手伝いをしてくれてありがとう！！"と言うと、それ以来、

"お手伝いをやらせて！！"とまわなくなり、●のキケンの良い時には手伝いを頼むと心良くや、こくれて助かるようになりました。

③については、改善が難しく、買い物に行った時のお店での行動にも困っています。

時前に"静かにするんだよ"と声をかけるのですが、毎回毎回、大騒ぎの繰り返しです。

このことができるようになれば、"お友だちの家に遊びに行きたい"や、"習い事をやりたい"という本人の希望もかなえられると思うのですが…。

…他にもあるのですが、メモに書いた困り事を、改めて私自身が考え直す機会となり、

先生に相談する前にすでに改善された、という事がいくつかありまして、

中村先生の助言の効果を感じています。学校での出来事にも話かされた事が

ありました。お友達と怒って言い合いになっていたのが、お互い気持ちを言葉で

伝えられた事があり、その時ほどとも気分が良かったようです。なかなか出来ない

③の事柄よりも、他に改善された事を、良く循環して行けたら、と感じています。

↳ 気長にとりくむつもりで…

中村かある先生へ

中村先生、2年と1学期、親子で大変お世話になりました。ありがとうございます。今振り返ってみると、私自身は、幼い頃の何の悪気もない[]に困っているだけの母親でした。ただただ、[]は「どうい子」であるだけで、何かが違う、何かと困らせていて、私も色々と働きかけたけどどうにもならずにいてと思います。“専門家の先生に...”という甚かのおちものを感じるのは、保育所での就学見健診の時だったと思います。内科健診の後に、子供たちだけで知能検査のようなものを受けられた時の、公園での場面の様を見て答えるところで、[]だけ状況がわかっていないような答えをしたというのを、当時のうけもちの先生から聞いた時でした。ことばの教室の説明会を受けた時に、発音の事か指摘された事か報告すると、その時にその事を話してくれました。うけもちの先生の率直で自然な気持ちで、隠す事なく話を私にしてくれたのが大変幸いでした。

そして中村先生に出会えた事、私自身は奇跡の

ように感じています。ありのままの[]を理解して下さい。[]の持っている長所をまず、いつも大切にしてくださいました。そして、[]も私もまだ気付く事ができていなかった「困り感」をいち早く察して下さい、指導して私たちに親子と関わって下さいました。もし、中村先生に出会っていなかったら、私は、母親の責任として不本意ながら、[]の長所さえも潰さざるを得ない矯正(強制)をしていく事になっていただろうと思います。誰では目先の小さなトラブルを防げても、何の解決にもならず、結果的に親子関係も悪くなるばかりだったと思います。

今日、ことばの教室を卒業する事となり、大変嬉しく思う気持ちの中、若干の大丈夫かなという気持ちもありです。

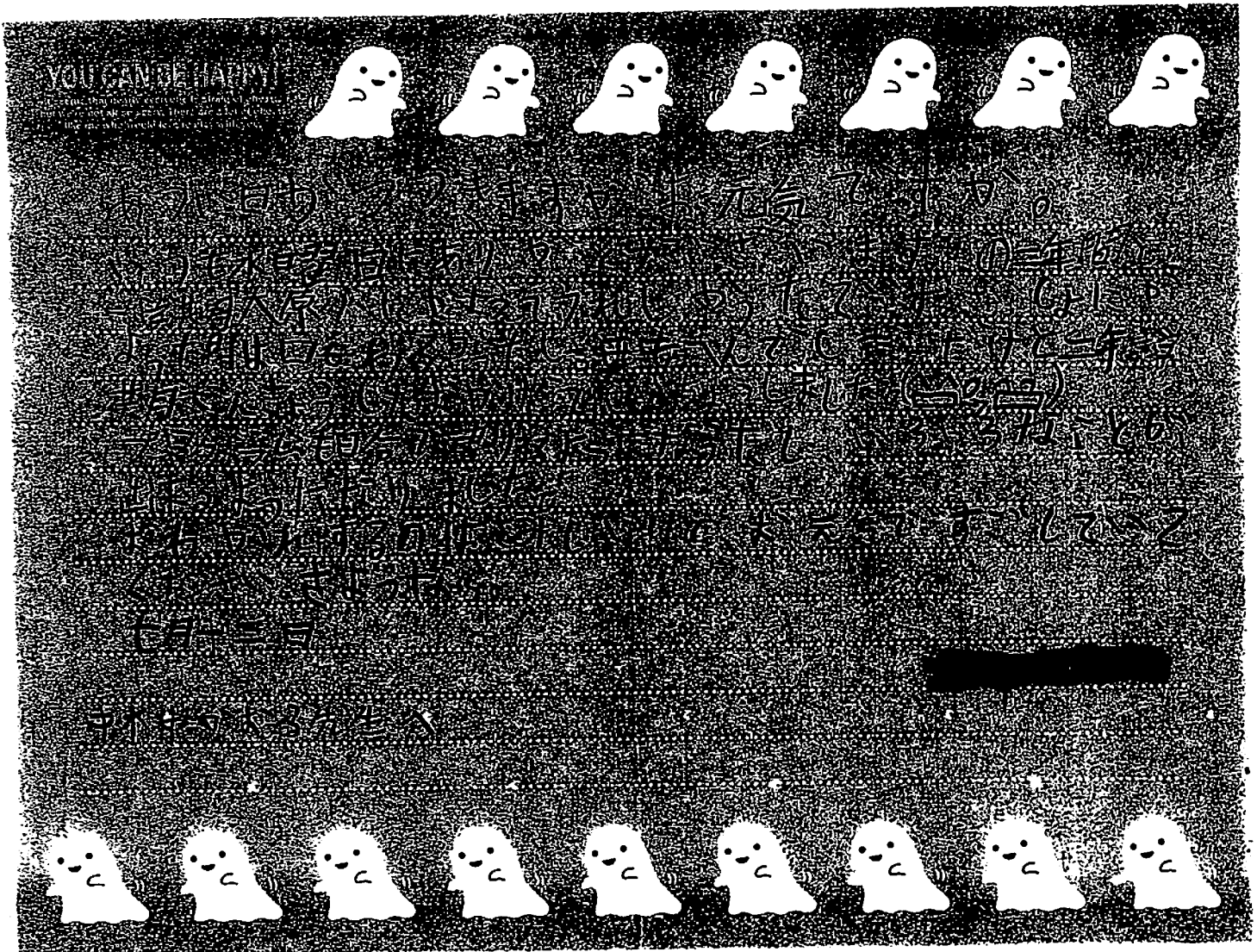
それでも、中村先生のもとで学んだ事や、お互いの気持ちを大切にしながら、これからももっと良い親子、兄弟、家族でいられるよう楽しく励んで行きたいと思っております。

また、[]だけでなく、多くの問題を抱えている子供たちが、自己肯定感を持って健やかに成長して行ける事を願っております。

子供たちの幸せを想う中村先生の大きな志に、
感謝しても、しきれません、2年と1学期 私たち
親子の支えとなって下さい。ありがとうございました。

■■■■■■の母

■■■■■■より



学くんは、3年生です。おペンが壊れか、大さきで、お友だちに
もやさしくできる。とても、いい子ですが、さんねんがとこが
ひとつあります。

それは、急に大声を出して言うことがあるところです。

たとえば先生が、「今日の休み時間はおリおせん。」と

言ったり、みんなが、おそろく言う声で「エーッ!!」とさび
ます。みんなが、しずかに漢字練習をしている時も、急に
大声で、さけぶことがあります。

学くんは、自分でびくんだり、おこったり、悲しんだり
すると、すぐ大声を出して言うのです。

こんな学くんは、どうすれば、よいかを考えて教えて
あげてください。

【急に大声を出す方法】

その1

わたるくんは、明るくて元気な男の子です。

ある日、教室で、友だちのあきらくんが先生に叱られて

いました。あきらくんは、泣きそうでした。

わたるくんは、あきらくんに、

「どうして叱られているの。」

と、にこにこして聞きました。すると、「うるさい!!」

あ、ちへいする。」と、あきらくんにとびられました。

こんどは、わたるくんは、先生に聞きました。

「あきらくんは、どうして叱られているの。」

先生は、「わたるくんには、かんげいがないよ。」と

ごまかす顔で、こたえました。

わたるくんは、どうして、ふたりとも、教えてくれないの
か?』と思いました。

1. あきらくんは、どうしてわたるくんのことと、ちがったところ、

2. わたるくんのことを、どう思いますか。

3. あきらくんが、わたるくんだったら、どうしますか。

その3

その2

さとるくんは、何をやるのも、みんなが早い。いちばんにやるのが、大好きです。1ばんにたけなかつたときは、ないたり、おこたり、すねたりしました。

そんなときは、先生も こま、ていました。

ある日、てん入生が、さとるくんのクラスに来ました。その子は、何をやるのも、ゆくりで、みんながからたくたけしなうことが、たたくさんありました。

でも、ビりにたけても、はつちも、えがおてした。さとるくんは、そのてん入生を見て、いるうちは、

1ばんにたけられたも、えがおていられるはうが、しあわせなのかも、しれない。と思えてきました。

1. さとるくんは、どうしてたんでも、1ばんにたけられたのか。

2. 1ばんだと、とんち、いいことが、ありまつか。

3. 1ばんにたけられたとき、あつたは、どうしまつか。

買ったものに出かけるときに、気をつけることを 5こ、書いてください。(家でよく買ったものに行く時です。)

①

②

③

④

⑤

まさおくんは、歌を歌うことが大好きです。とてまじょうす
で、みんなからも「歌が上手だね。」と言われたいます。
それで、まさおくんは、かっしろうだんに、入ることにしました。
かっしろうだんに、1年生から6年生まで、いろいろな学校
の、いろいろな友だちがいます。しらす、子じょうかしたした
が、まさおくんは、みんなと友だちに、なりたいと思います
ました。

1. まさおくんが、かっしろうだんの友だちを作りに
はとうしたは、いってしよう。

2. あつたは 「歌がじょうすだね。」と言われたら
何と答えてますか。

3. かっしろうだんで、歌うときは、とんがに、気をつけれ
ば、いって思っていますか。

あきらくんが、ひろくんに、
「えんぴつを、かしてくれる？」
と、いきました。ひろくんは、「いいよ。」
と、いって、いそいで、えんぴつを、とりに、行きよした。
それで、ひろくんが、あきらくんに、えんぴつを
わたそうとして、いたら、きゆうに、また、ひろくんが、来て、
あきらくんに、「はい、えんぴつ、かしてあげよう。」
と、いきました。

① あきらくんは、とうして、こま、てし、ました、ので、しよう。

② ひろくんは、とんが、きもち、て、しよう。

③ まさおくんは、とうす、れ、は、よ、か、た、の、て、しよう。